

日本バプテスト聖書神学校

第59回 卒業式

June 29, 2018 説教者 ラージャス師/ライクマン師

神学校だより

JAPAN BAPTIST BIBLE COLLEGE

日本バプテスト聖書神学校



Contents 1

校長の机から

石川 実

卒業生の証し 卒論

香川 尚徳

藤沢 幸人

修了生の証し

鹿毛 喜悦

松田 綾乃

Contents 2

卒業カンファレンスの証し

堺 希望

西牟田 恵理也

2017年度後期伝道実習

井垣 勇基

澤 みのり

新入生の救いと献身の証し

張替 愛

神学校の思い出

上間 聡美

校長の机から

聖書のお言葉 への態度

校長 石川 実



「この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、非常に熱心にみことばを受け入れ、はたしてそのとおりかどうか、毎日聖書を調べた。」（使徒17：11）

先日、広島に帰郷したおり、高校生時代の親しい友と夕食を共にしました。彼は当時野球部のエースで、文武両道でした。驚いたことに、私が卒業した中学の校長に、彼は今年から赴任していました。

私からの福音を聞いてくれましたが、彼は自分も石川に聞きたいことがあると言いました。彼はもともと技術科の先生で、私は技術者として10年ほどメーカーでものづくりをしていました。彼は2年後に定年する予定ですが、その年に全日本技術・家庭科研究会の全国大会が初めて広島で開催されるが、その長が自分だということです。

彼は、今日技術は高度になり過ぎていて、電気製品なども自分では直せない時代である。そのような中であって、はんだ付けなど教える意義がどこにあるのかなど語り合いました。そして、技術科はぱっとしないように思うかも知れないが、他の授業などで居眠りをしている生徒も、金属を削る実習では一生懸命ヤスリをかけたりしていると、彼は技術科の可能性を目を輝かせて語ってくれました。

冒頭のお言葉は、ベレヤの信徒の人たちについて語ったものです。今日のような忙しい時代では、「毎日聖書を調べる」ということは、ほとんどの人には不可能でしょう。ですが、神学生にはそのような環境があります。当神学校は全寮制であり、現役の牧師から聖書を学び、図書館の図書も充実しています。

ぜひ、この時間を尊く用いていただきたいと願っています。お言葉で言われているように、まず素直であり、次に熱心であって、受け身ではなく、日々聖書を自分で調べていただきたいと思います。

当神学校のモットーは次の通りです。

“ENTER TO LEARN,
GO FORTH TO SERVE”

「学ぶために入り、
仕えるために出て行く。」

今年度も諸教会の先生方と兄弟のお祈りとサポートをお願い致します。

卒業生の証し、卒論

2018年6月29日(金)神学校で第59回卒業式が行われ、2名の卒業生と2名の修了生が伝道の一線に旅立ちました。卒業生には証しと卒論について、修了生には証しを書いていただきました。

神学校を卒業して

4年課程

横浜B B C

かがわ たかのり
香川 尚徳



主の尊い御名を賛美いたします。

「4年間よくもったね。」「そうだね。良かったね」卒業後、妻と交わした言葉でした。それは、神学校入学に際して、中古で買った私のパソコンのことです。中古ですから当り外れは、当然起こります。たまたま、私の場合は、前の方が、たいへん良く、使われておられたようです。時を待たず、冷却ファンが停止、やがて、液晶画面も見えなくなりました。WiFiの不具合もあり、いつ壊れるかと心配していましたが、なんと卒業式を終えるまで、充分に役目を果たしてくれました。

入学は、ワーカーズ2年コースでした。その後、伝道者への召しをいただき、4年コースに変更をしました。後半2年分の経済は、計画外でしたが、教会や家族の支えで、不思議に守られました。そのことは、偏に主のあわれみによるものと実感し

ています。

神学校では、いつも寝不足でした。すぐに寝つくのですが、1-2時間毎に、目が覚めてしまうのです。その都度トイレにも行きます。海拔約1000mの軽井沢では、平地より10%ほど気圧が低くなっています。それが、私にとって、原因になっているであろうと気づくのは、3年生の時、別の神学生にも同様の症状があることを知った時でした。ただし、原因がわかったところで、パソコンのように部品の代替でと言う訳にはいきません。しかし、ここでも主が私をあわれんでくださいました。寝不足が続く中でも、大きく健康を崩すことなく、4年間学びを継続することが出来ました。また、多くの愛兄弟が、私の神学校での学びと寝不足の中での健康の守りをいつも覚えて下さり、そして、祈ってくださっていたことにも本当に感謝でした。常にその熱い祈りを感じながら、また、その祈りに励まされて1つ1つの学びを重ねることが出来ました。

神学校は、「学ぶために入り (Enter to Learn)」
「仕えるために出て行く (Go Forth to Serve)」
場所だと言われています。しかし、仕えることはもちろん、学ぶことも同様にこれからも継続すべきことと示されています。

私の中古パソコン以上にできないことの多い私です。いや、出来ないと思うことばかりです。ですから、自分に死んで、主に用いていただけますように、また、今後の働きのために、お祈りいただけましたら感謝です。

「次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。」Ⅱテモテ1:11。主にありて

卒業論文

「牧師交代にかかわる一考察

～牧師職務の理解は必要か」

1. 研究の目的

JBBF諸教会の牧会者の協力を得て、アンケート調査を実施し、牧師交代の問題の実態を把握し、牧師の職務という観点から、考察を加えることに取り組んだ。

2. 本論では、牧会と牧師の定義、権威とは何か、神と教会の権威、主イエスの権威、使徒と教会の権威、使徒と牧師、招聘、牧師の職務/定義～職務分類／職務分類表、牧師職務の特殊性、牧会配慮、牧師の職務理解が難しい理由、牧師と信徒の関係性、聖書にみる継承：(1/2)－ダビデ→ソロモン、(2/2)－ソロモン→レハブアムとヤロブアムについて、それぞれに検討を加えた。

3. 牧師交代にかかわる4つのアンケート

1)牧会ジャーナル 「牧師の交代に関する読者アンケート調査」

2)JBBFアンケートその1

・牧師交代の問題点に関して、実際に牧会にあたられている牧師のご意見を伺うことを目的に実施した(JBBFの20教会)。

3)JBBFアンケートその2

・アンケートその1を踏まえ、牧師の職務に関する意識調査を実施した。牧師のみならず、教会員の方にもご意見を伺った。その1の20教会中10教会100件(人)。

4)JBBFアンケートその3

・JBBFアンケートその2のA教会における牧師像に関するアンケート調査。

4. 本論のまとめとアンケート結果を踏まえ、以下の結論を得た。

1)牧師交代に関する問題はどこにでもある

2)問題から垣間見る成すべき対応

①牧師交代には、前任牧師がすべき準備、後任牧師がすべき準備、後任牧師を迎える教会がすべき準備の3つの準備がある。

②前任牧師から後任牧師への引継ぎに関しては、期間と内容の2つの要素がある。

③前任牧師、後任牧師、教会ともに聖書が言う牧師、教会を問い続ける。

3)牧師職務の理解ならびに職務からみた牧師像の重要性。

教会員の目線の牧師像として、海外旅行の添乗員を1例とした。海外旅行中に添乗員が交代するとすると、後任者の職務能力は当然問われる。

4)牧師像と牧師交代

今の牧師を職務から正しく評価し、これまでの牧会で主が更に満たそうとしている部分はなかったかを確認する。同時に、後任牧師も職務から、評価し、後任牧師の新しい賜物や、主の求める新たな牧会のビジョンを、後任牧師の牧師像とともに描く。さらに牧師、教会員の立場それぞれからの教会員像もすり合わせていく。

5. 最後に

職務からの評価が適切かどうかは、その時の牧師と教会員の信頼関係にもよる。教会員が、牧師の職務とビジョンを含めた牧師像を、教会員に分かりやすい形で共有し、職務をみながらも牧師を批判しない霊的な成長を遂げていれば、牧師の交代、信仰の継承について、無用な混乱が避けられるのではないか。

神学校卒業

の証し

4年課程

カルバリの丘BC

ふじさわ ゆきと
藤沢 幸人



神学校を4年間の空白を挟んで8年かけて卒業した方も、卒業時の年齢が70歳だった方も、これまではおそらくおられなかったのではないかと思います。私の場合は、ようやく卒業に辿り着くことができた、というのが正直な実感です。

伝道所の伝道師を勤めながらの神学生は、本当に大変でした。皆さんご存知のように神学生は、月曜日に神学校に行き、火曜日から金曜日の午前中まで授業を受けて、午後に教会に帰りますが、自宅に着くのはいつも夜になります。土曜日は礼拝の準備、日曜日は礼拝や各種打ち合わせ、伝道所会議などを行い、月曜日に神学校に向かいます。これを9月から翌年の6月まで繰り返して1年が過ぎます。

伝道所では責任者ですから、すべきことは山ほどあります。週報を作り、礼拝のプログラム、毎週のご奉仕の方々との打ち合わせ、クリスマスやイースターの計画、特別伝道集会の打ち合わせ、JRキャンプ、青年キャンプ、母の日礼拝、父の日礼拝、聖歌コンサートの準備、問題を抱えておられる方との面談、皆さん方との毎週のお交わり、しばらく休んでおられる方々への訪問、手紙など、小さな伝道所なのでほとんどのことは伝道師がし

ます。いくら時間があっても間に合いません。

また神学校では、課題が出され、予習をしなければならない教科もあります。神学校ですから、教師の先生方はのんびりさせてはくれません。読むべき本を次々に紹介してくださり、授業の他に自主的に課題を決めて学ぶように勧められます。

最初の2年間は、伝道師ではなかったのですが、それでも60歳を過ぎており、若い学生さん方に付いて行くのは大変でした。後半の2年間は、もう言葉にできないくらい大変でした。伝道師でありながら教会ですべきことの半分もできない。神学校では、課題に十分な時間をかけられない。予習すべき教科もしないで授業に出なければならない。

結局、神学校と教会の両方のストレスが溜まり、絶望的になってくる。とうとう身体に異変が起きて高熱を出し休まざるを得なくなりました。気持ちの上でも「もう駄目かな」と諦めかけました。

しかし神学校では、私が続けられるように120%便宜を図ってくださいました。そしてただ一人の同期生の香川尚徳兄始め、神学生の皆さんが全面的に協力してくださいました。私をいつも祈り支えて下さいました。

伝道所の皆さん方も、またJBBFの他教会の多くの方々も先生方も祈ってくださいました。私ほど祈られて卒業した方はおられなかったと思います。皆様方、本当に感謝いたします。私が卒業できたのは間違いなく皆さん方の祈りの結果です。そして、何よりもカルバリの丘伝道所に導いてくださり、神学校に2度も導いてくださり、卒業まで支え続けてくださった主イエス様に心から感謝します。

卒論紹介

「無牧の教会が増えて行く心配」

私は、カルバリ伝道所の伝道師として働きながら、神学校で4年過程後半の2年間で学んできました。私がカルバリ伝道所で働いてから4年が経ちますが、私が伝道所に招聘される前は、伝道所は2年半に亘って無牧でした。当時から伝道所は、新築の会堂があり、会計上も自立していました。そして1週も欠かさずに礼拝を続けて来ましたが、しかし、無牧でした。皆で熱心に祈り、伝道師を願いましたが、来てくれる人がおりません。いないというよりもそれ以前にどのようにして探せばよいのかもわかりません。

結局は、2年半の後に私たちが伝道師として着任しますが、その間は、このままではいつまで経っても教会になれないという不安が常にあったそうです。このことが今回の卒論の動機になります。

JBBFには現在、無牧の教会が7つあります。その内この1年で伝道師が与えられた教会は1教会だけです。これまでは、牧師の交代は、自分の教会から献身者が起こされる場合を除いては、懇意の牧師にお願いして後継者を探すという方法が取られてきました。JBBFの伝道所・教会が90教会以上になり、牧師の交代を控える教会がこれから増えて行く状況の中で、果たしてこれからも同じ方法で牧師を捜すことができるのでしょうか。非常に難しいと言わざるを得ません。その上神学校に入学する献身者が減少している現実の中で、無牧の教会が増えるのは間違いありません。

他教派を見ても、状況は全く同じです。しかし、

他教派では伝道者と伝道者を求める教会を紹介するシステムが出来ている教派もあります。しかしそれでも無牧の教会の解消は難しく、兼牧の教会が増えていきます。

JBBFでも今から対策を始める必要があります。90教会中20も30もの教会が無牧になってからでは遅いのです。カルバリ教会が経験したように牧師のいない不安な教会生活ではCSの学びも伝道も宣教も考えられないのではないのでしょうか。

そこで1つの提案をします。それは各地で行われている牧師・伝道師会で牧師交代に関する情報をまとめていただく。無牧の教会をリストアップして、教会の内容を具体的に紹介する。牧師・伝道師の先生方の情報についてもデータとして残して行く。

しかしこれらを妨げる壁は、バプテスト教会の大きな特徴である「教会の自治独立」にあります。教会の人事は何者によっても指示されたり、影響を受けずに運営されなければなりません。これは基本です。しかし、現在ではそのために必要以上に教会が閉鎖的になり、牧師交代という最重要課題についても、隣の教会がどのような牧師を求めているのかさえ知ることができず、互いに協力もできていないのではないのでしょうか。

卒論では、もう一つのテーマ「伝道者の先生方の退職後の生活」も取り上げました。長年忠実に主に仕えて来られた牧師、伝道師、婦人伝道師、教会スタッフの退職後の生活も、教会内だけではなく、JBBF全体で議論する時が来ているのではないのでしょうか。

修了生の証し

砕き造り変えて
くださる神の愛

2年課程

港北NTB B C

か げ き え
鹿毛 喜悦



主の御名を心から賛美致します。

諸教会の先生方、兄姉の祈りと励まし、様々な形でのサポートを心から感謝致します。入学前にイザヤ64：8「**今、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。**」というお言葉が与えられました。神の愛のみわざを多く体験した二年間であったことを、感謝をもって証しさせていただきます。

組織神学の授業で神について学ぶ中「知っている」と思っていた高慢は打ち砕かれました。そして、自分自身の無知を示されると同時に、神を深く知り続けたいと願う心が与えられました。また今後、福音と福祉に仕える働きを担っていくうえで、聖書を土台とした正しい神理解、人間理解の重要性を身に染みて実感させられました。墮落以前の「神のかたち」を知ることを通して、自分自身も含め、目の前の魂にどのような課題があり、どのような支援が必要なのかをしっかりと捉えていく必要があることを感じました。

寮生活を通して、自分が隠し持っていた自我

が打ち砕かれました。弱さを抱える方々を愛し仕えるどころか、目の前の兄姉をも愛することができない自分、他者を裁き、傷つけ、つまづかせてしまうような自分の姿が明らかにされました。「弱さを抱える方々に福音の希望を」という召しを担いきれず、そこから逃れようとして幾度となく神様と格闘をしました。そんな私に、神様はヨナ書を通して神様の使命は変わらないこと、救いは主のものであり、神様の愛とあわれみは全ての人々に注がれているのだと語ってくださいました。私に愛があるから働きを任じられているのではない。神は、神の愛と福音による和解の恵みを人々に伝えることができるように、あえて弱い私を選び、用いてくださるのだとの確信が深められました。

修了後は、港北ニュータウン聖書バプテスト教会の教会スタッフとしてご奉仕をさせて頂きながら、精神保健福祉士の資格を生かして地域の福祉施設に勤める予定です。「教会を中心とした街づくり」という教会のビジョンの中で、将来「祈りと賛美の家」というグループホームの開設、また聖書を土台とした福祉と医療、教育の連携による全人的なケア、これらの働き人の育成という働きを夢見ています。そのためにも「目の前の一人一人の魂を愛し、仕えていくことができますように」と祈られています。マタイ25：40「**すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』**」

神学校修了の証し

2年課程

港北NTBBC

まつだ あやの
松田 綾乃



神学校2年間の学びと

訓練を与えてくださった憐れみ深く愛に満ちておられる主に、心からの感謝をおさげいたします。

「陶器師は、粘土で制作中の器を自分の手でこわし、再びそれを陶器師自身の気に入ったほかの器に作り替えた。」(エレミヤ18:4) 入学直前、期待と不安の中で、この御言葉が主から与えられました。2年間の神学校生活は、この御言葉のとおり、絶えざる主のお取り扱いの中で、頑なな自分自身を砕いていただいたように思います。どこまでも自分自身の力に頼ろうとする私を、主は愛の御手をもって、私を無力にし、主にのみ頼ることを教えてくださいました。打ち砕かれ、自分自身に絶望した2年目の学びの初めに、主は御言葉を与えてくださいました。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」(ガラテヤ2:20) いま自分自身が生きているのは、自分の力や努力によるものではなく、一方的な神の愛とあわれみ、そして罪からの救い主であるキリストを信

じる信仰によるのであることを改めて教えられ、与えられている福音の恵みの素晴らしさを実感させられました。自分が生涯、喜びと感動をもって伝えるべきは、魂を救い、真の平安と希望を与える福音の恵みであるという確信をいただきました。

2年間の神学校生活を通して多くの恵みをいただきました。その1つは、神の御言葉である聖書は真実であり、今も生きて働くということをお教えされたことです。チャペルや授業を通して御言葉の真実さを実感させられ、同時に御言葉によって自分自身の姿が照らされ、悔い改めに導かれました。2つ目は、神学校において教鞭をとって下さる諸教会の先生方から多くを教えていただいたことです。御言葉に対する熱心さ、魂への情熱、主に対する徹底的な献身と従順から生まれる仕える姿は、自分にとっては主の働き人の模範となりました。3つ目に、主にある兄姉との幸いな交わりをいただいたことです。共に祈り合い、励まし合い、助け合い、語り合い、時には戒め合いながら、主に召された恵みを分かち合う幸いをいただきました。

伝道実習やキャンプを通して、諸教会の先生方や兄姉と幸いな交わりをいただいたことは、大きな祝福でした。フェローシップの諸教会のお祈りとサポートを心より感謝いたします。何より、母教会である港北NTBBCの先生方はじめ兄姉方にはこの2年間、多くの祈りと犠牲の中で、神学校に送り出してくださいました。交わりを通して、共に喜び、共に涙し、共に祈りをささげてくださったことに、心から感謝しております。

卒業カンファレンス

2018年6月26(火)～29日(金) 卒業式に先立って、アル・ライクマン博士をお迎えして講義が行われました。2名の学生に感想を書いてもらいました。



ライクマン博士



通訳をされる清水浩治先生と上田平安先生



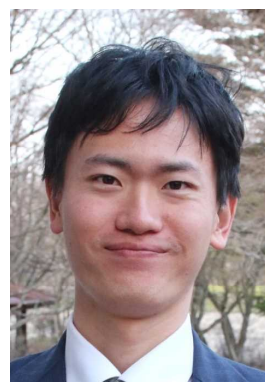
カンファレンス風景

カンファレンスの証し

4年課程2年

滝山BBC

さいのぞむ
塚 希望



今回は、「イスラエルの礼拝」、「旧約聖書に見る『聖』」というテーマで、ユダヤ人宣教師であられるアル・ライクマン師から講義をいただいた。私達日本人が通常持ち合わせていない正統派ユダヤ教的視点から、律法順守の具体的方法から歴史、婚礼や子育て、さらには聖書に対する姿勢など、古代から脈々と引き継がれる「ユダヤ」という民族を一層知る機会となった。

たとえば、「子やぎをその母の乳で煮てはならない。」(民数記14:21)という律法を守るために、彼らは食事時に必ず乳製品と肉料理を一緒に出さない。また、「安息の日には、あなたがたのどの住まいのどこでも、火をたいてはならない。」(出エジプト35:3)を守るために、安息日(土曜日)には料理をはじめ、火を使わないのはもちろんのこと、「電気のスイッチを入れる」、「車のエンジンをかける」等もしない(伝導時にスパークが起こるため)。その厳格さには舌を巻いた。

今回、特に私の心に留まったのは、トーラー(モーセ五書)に対する姿勢である。モーセ五書には神の民としての生き方が書かれている。そのため彼らは旧約聖書の中でも特にそれを重んじ、内容

だけでなく書物自体にも敬意を払っている。それは「主」の御名が書かれているからだ。もしもトローラーを落としてしまったのならば、その面を綺麗に払い、キスをする。彼らにとって、主は恐れ多い神であるだけでなく、愛の神であることもわかる。

彼らの聖書の神に対する熱心さは、私の生活では及びもつかない程のものだ。その中の幾つかは、確かに見習わねば、と思った。しかし、文化も習慣も、果ては聖書の完成形も違う彼らと私とでは、その一つ一つに込められている想いのベクトルはやはり違うのだろう。

私は今回、彼らに敬意を持ったと同時に、非常に切ない想いを抱いた。なぜなら、彼らほど熱心に神を求めている人々もないのに、彼らは本当の救いを知らないからだ。「キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。」(ローマ10:4) 私達はそれを知っている。彼らの熱心さを見るときに、私は、彼らが未だ救われておらず、自分が救われていることに不思議を覚える。私が救われるために努力したことなど一つもないからだ。

今回は、たった三日間の講義だった。私が知ったユダヤ人達のことなどほんのわずかなことだろう。それを考えた時に、私は神の御恵みの深さ、救いの尊さ、今を生きる神の民イスラエルに対する敬意や憐憫の絢交ぜになった感情を覚える。そして、神の福音だけが、真に人を神の御元へと導くのだと、静かな熱をもって教えられるのであった。

カンファランス を受講して

4年課程2年

亀岡BBC

にしむた えりや
西牟田 恵理也



卒業カンファランスに出席できたことを感謝いたします。今回、ラージャス先生の派遣教会「ホールマーク教会」の巡回伝道師である、アル・ライクマン先生から講義を頂きました。先生は正統派ラビ(ユダヤ教教師)の家庭に生まれましたが、福音を聞き、イエスさまを救い主として受け入れられました。

ライクマン先生の講義は、ユダヤ人の「教派」といった基本的な学びから始まり、ユダヤ人が行っている教えについて、いずれも旧約聖書、特にモーセ5書に基づいて行われていることなど、4日間にかけて、一つ一つテーマを取り上げて、詳しく講義してくださり、通訳者の清水浩治先生、上田平安先生がその講義を分かりやすく、かつ補足も加えて通訳してくださりました。

講義の中で一番印象に残ったのは、「ユダヤ人にとって、律法は救われるために守るものではない。」というものでした。ユダヤ人にとって、律法とはあくまでも、選んでくださった神に感謝・応答するために守るものであり、結果として救われれば「good」、救われなくても、それはそれで「good」と言う内容のものでした。ユダヤ人について考えるとき、意識してかせずしてか、「律

法的」という言葉を使いがちですが、実際には、こちらから色眼鏡をかけて間違った認識をしているところも多いのではないかと思います。

また、ユダヤ人は、キリスト教に改宗したり、ユダヤ人以外の人と結婚した時には、その人に対する葬儀が行われること、ライクマン先生も、実際に親族から葬儀をあげられたことをお聞きしました。律法から離れるなら追放、という考えに基づいてのことですが、先生ご自身が、大変な試練の中で信仰を持ち、また伝道を続けられていることも教えられました。

今回、このように講義の時を持てくださったライクマン先生、また通訳をしてくださった清水先生・平安先生に心から感謝いたします。ライクマン先生は、ユダヤ人向けのトラクト伝道にも力を入れられているとのこと。「メシアはどんな様子でしょうか?」といった表題で、旧約聖書に、預言者がメシアをどのように語っているか書かれているとのこと。新約聖書の御言葉、また「イエス・キリスト」という名前すら使わずに伝道できる内容になっているとのこと。先生の働きが、ますます祝福されるようお祈りしています。ありがとうございました。



卒業式で説教されるラージャス先生

2017年度後期伝道実習



実習の行われた希望の丘教会の前で

後期伝道実習 の証し

4年課程2年
調布BT

いがき ゆうき
井垣 勇基



貴い主の御名を賛美致します。二度目の伝道実習となりましたが、今回も想像をはるかに上回る大変すばらしい学びの時となりました。

実習では各集会の準備と、チラシ配布が中心となりました。主の恵みが豊かに注がれ、総合で10名の新来者と1名の久々の方を教会にお迎えすることができました。このことを通して、主のなさることは、私たちの理解と期待を越えた全き御業なのだという事を教えられました。

また、今回の実習での最も大きな祝福は、実習中の学び会を通して、白井清之先生から、教会の中で起きた信仰の試練のお証を伺えたことでした。そして、その試練に主にあって勝利され、主

の導きのうちに建てられた新会堂と、そこに集う兄弟姉妹の信仰の生のお姿をこの目で拝見できたことでした。

私は今自分をご奉仕させていただいているこの新会堂が、試練の真ただ中に於いて、主により頼んで福音宣教の使命を果たして来られた先生方と兄弟姉妹の信仰の実であることを思い、大変感動致しました。そこに兄弟姉妹が喜んで集い、主に礼拝を捧げ、福音を伝えるために再び教会から出て行かれるお姿を拝見して、主を賛美せずにはいられませんでした。

そして、お証の最後に白井先生は「すべて神様がなしてくださった恵みです」と証してくださいました。そのお証を通して、初めて開拓が始められてから現在に至るまで先生方を支え、兄弟姉妹を励まし、ご自身の教会をお建てになった主の貴い御名をあげました。主に栄光を帰す働きとはこのようなことなのだと教えられました。たとえ思わしくない状況の中でも主に信頼し、その信仰に答えが与えられたときに、それまでの自分の葛藤や痛みではなく、主に目を向け、感謝することなのだと。自分自身が信仰の試練に直面する時、果たしてそのように歩めるのだろうかと考えさせられました。しかし、今回教えられたことを胸に、御言葉に信頼して歩み続けていきたいと心から願います。

「涙とともに種を蒔く者は喜び叫びながら刈り取る。種入れを抱え泣きながら出て行く者は束を抱え喜び叫びながら帰ってくる。」 詩篇126:5,6

このような機会をくださった主と希望の丘聖書バプテスト教会に感謝するとともに、教会のお働きの祝福を引き続き祈らせていただきます。

後期伝道実習 証し

4年課程2年
めぐみBT

さわ
澤 みのり



主の御名を賛美致します。今回、希望の丘聖書バプテスト教会で伝道実習をさせて頂けたことを、主に感謝致します。

この伝道実習では、賛美集会を持つことができたり、男女分かれて学び会を持つ機会があり女性には白井恵子先生を通して学びを受けることができたり、前期の伝道実習にはなかったスケジュールがありました。

特に賛美集会に向けて学生達と祈りつつ備えた期間は特別でした。神様に最善のものをおささげするために、また賛美を通して証しができるようにと練習していた期間はとても恵まれた時間でした。歌詞を読み深めて、どんな風に賛美したら良いかと考え工夫するときに、深く感動したのを今もよく覚えています。神様の恵みによって贖われた者達が、それぞれに与えられている賜物、声や楽器を持ち寄って、心合わせて神様に賛美をおささげすることのできる喜びをかみしめることができました。

また恵子先生を通していただいた学びの中では、自分の幼さ、献身者としての幼さを示されました。まず第一に、幼い頃の出来事でまだ解決出

来ていない事を主によって解決を頂く必要性、負っている傷を主にあっていやして頂く必要性を教えられました。教会には弱さを持っていたり、心に傷を抱えている方が多く来られます。その時、自分自身が主にあって解決をいただいている、いやされている必要があるということです。もう昔の事だから忘れてしまおうとしていること、なかったことにしてしまうようとしていることがあることに気づかされました。しかし私の主である神様は永遠であって、その出来事があった時も私と共におられ、今もその時に遡って解決を与えることが出来るお方であるから、解決を祈り求めたいと思うことができました。第二に、自分のすべてを神様にあけわたし幼さから脱却することを教えられました。どれだけのことを自分は神様に委ねることができていたかを考えさせられるときとなりました。自分を殺して、自分に対して死んで、ただ神様の栄光のために生きること、これが幼さからの脱却であって、神様が喜ばれる歩みであることを改めて教えられました。

教えられたことをこれからも思い起こし、はじめの愛に立ち返り、神様の愛の中で、強さと覚悟を持って主の働きをになうものでありたいと、ここからぶれないようにと祈り続ける者でありたいです。



新入生紹介

ワーカーズ1年課程
横浜BBC

はりかえ あい
張替 愛



救いの証し

私は、親がクリスチ안의家庭に生まれ、教会に通うことも神様がおられることも当然の環境で育ちました。生まれたときから通っていた広島聖書バプテスト教会の教会学校では、私には人を悪く思ったり嘘をついたりしてしまう罪があること、そのような罪をもったままでは死んだ後で地獄に行かなければならないこと、けれども私を愛してくださっているイエス様が十字架で私の罪の身代わりに死んで3日目によみがえってくださったこと、そのことを信じるだけで罪は赦されて天国に行けるようになることがいつも教えられ、何の疑いもなく受け入れていました。

そして小学1年生で参加した関西地方の教会合同キャンプにおいて、イエス様を自分の救い主として信じる決心をし、翌週の礼拝において公の信仰告白をいたしました。救いの確信となるみことばは、ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」です。

ところが、高校一年生になったばかりの春、突然父が天に召されるという試練が与えられました。自分にはどうすることもできない突然の大きな悲しい試練に、それまで純粋に信じていた神様の愛を見失ってしまいました。「神様はどうしてこんな意地悪をなさるのだろう」「神様は祈りに応えてくださらない」と失望し、心は神様から離れてしまいました。教会には通い続けましたが、それは家族や教会の皆が心配するからで、心は神様への苛立ちと不満でいっぱいでした。けれども、そのような状態はますます苦しいばかりで、久しぶりに聖書を読むと、乾ききった砂漠のような心にどんどんみことばが吸収され、神様の前に自分の心がどれほど高いのか、今の状態こそが罪であることを示され、改めて神様との関係を正しい位置に戻していただくことができました。

それから年を重ね、様々な経験をするたびに、神様に造られておきながらお従いすることのできない、神様に喜ばれる歩みのできない自分の罪深さにうちひしがれることがあります。けれども、自分の罪を知れば知るほど、その罪が赦されていること、天国に入れていただける救いの恵みの大きさにただただ感謝が溢れます。生涯をかけて、私が頂いたこの救いの素晴らしさを味わい、周りの方々に証しする者とさせていただきたいです。



献身の証し

素晴らしい主の御名を心から賛美いたします。フルタイム献身の召しが自分に語られているのではないかと示されたのは、2015年の全国聖会でのメッセージを通してでした。それまでの人生の中で、フルタイム献身だけは自分に無関係だと思って生きてきました。ところが、ヨハネの福音書21章でイエス様がペテロに、「あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか」「わたしの子羊を飼いなさい」「あなたはわたしに従いなさい」と言われたみことばが心から離れませんでした。そして、その時ラージャス先生が賛美された「収穫の畑に」という賛美の、「わたしを遣わしてくださいと祈ります。刈り入れを待つ収穫の畑に～」という歌詞が迫り、主の前に、「私を遣わしてください」と祈るように変えられました。

けれど、すべてを献げ尽くして歩むことが出来たらどんなにか素晴らしいだろうと考える一方で、挙げれば切りがないほどに、決心を拒む理由が私の側にはありました。何しろ、自分はとても献身者として歩むにふさわしい者ではありませんし、すべてを献げることはすべてを失うような思いに囚われることもありました。今のままでも、神様にお仕えしていくことはできるし、薬剤師としての仕事や家庭においても、自分の小さい頃から思い描いてきた夢半ばという感じがしていました。

けれど、みことばによって、あるときは環境によって、なかなか従えずにいる私に神様は語り続けてくださいました。

そして、今年2月の横浜教会での宣教カンファレンスにおいてロン・ホワイト先生を通して語られた5千人の給食の奇跡のメッセージの中で、全能のイエス様はあの小さなお弁当が無くても奇跡を起こせる方なのに、あえて、あの少年に献げる機会を与えてくださり、感謝して用いてくださったこと、そして有り余る祝福を与えてくださったことを強く教えられました。今まで、小さい頃から本当に何度も何度も聞いてきた奇跡のお話ですが、このお話が自分の人生と直接関係がある！と気づかされたのは初めてでした。私の人生の主人公はイエス様ご自身であり、私が何をもっているか、何ができるかは問題ではないこと、あの少年も、お弁当がどうなるか分からずにただイエス様に差し出したこと、しようとしていることを知っておられるイエス様にお渡しするときに、主がご栄光を現してくださるのだと確信することができました。

今も先のことは何も分かりませんが、昼は雲の柱で、夜は火の柱で導き上ってくださる主を見上げて、主のご栄光のために私の生涯を用いていただきたいです。

私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」イザヤ書6章8節

神学校の思い出

浦添聖書

バプテスト教会

うえま さとみ
上間 聡美



「しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、愚かな者を選び、・・・また、この世の取るに足りない者や見下されている者を神は選ばれました。すなわち、有るものをないもののようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。」 第一コリント1：27、28

私は30期生として神学校に入学しましたが、おそらくその頃が学生の人数が最も多く、活気にあふれていた時代ではなかったかと思われます。信仰と賜物に溢れた兄弟姉妹が沢山おられ、福音宣教と教会に仕える働きのために高い志を持った方々と共に学ぶことが出来本当に感謝でした。そして各教会の祈りと協力により送り出された先生たちによる授業は恵まれ、主のみ言葉を、知恵無き者にもわかるようにかみ砕いて教えてくださいました。

各授業の始まる前には賛美をしてから・・・30期のメンバーは音楽の賜物に溢れている兄姉ばかりでどんな曲もすぐにハーモニーが奏でられ天国での賛美を垣間見るかのようでした。(勿論、音楽の賜物だけではありません)このような交わりに加えられたことを本当に感謝しています。

恵みのチャペルタイム・・・昼食前の時間、先生方が語ってくださるみ言葉の糧が魂を潤してくださいました。時には、その時間が‘バレーボールタイム’に変更！もあり、楽しいリクリエーションの時となりました。

神学校のお母さんの存在・・・30人近い学生と教師の食事作りを一手に担っていたのが渡部姉でした。限られた予算の中で非常に工夫してやりくりして兄姉のために奉仕してくださいました。何といっても忘れられない味が何十年物の糠床で漬けられた漬物でした。神様への献身がなければ担っていけない奉仕でした。それ故、時に学生にも苦言を呈したり、心配な学生のためにはより心砕いて祈ってくださったりしていました。

祈り会の祝福・・・早天祈祷会では火曜日から金曜日の朝、数名の早起きの兄弟姉妹が集って神学校のことや各教会や兄弟姉妹のことなどを祈っていました。

宣教祈祷会
(MPB)では特に海外宣教の働きのための祈



りや情報交換などすると共に、BBFから宣教師をお遣わし下さいとの祈りが積み上げられその後、数組の宣教師が次々と遣わされていきました。

また、女子寮では婦人宣教師、婦人伝道師の祈り会も行われていました。女性一人で教会に仕えておられる先生方の働きに感謝し、その必要を覚え祈る祈り場は恵みと主の臨在をおぼえる時でした。全ての祈り会は有志により行われたもので自

由参加でした。皆、多忙な中、また肉体の弱さをおぼえる中での祈り会継続はやはり主が成し遂げてくださったことでしょう。

まだまだ神学校の思い出は語り尽せません。主と多くの方々の献身と祈りに支えられて神学生としての時を過ごせたことを改めて神様に感謝いたします。

【予定】

●9月3日(月)午後2時からの入学式には、1名の新入生を迎えます。次年度は、在校生11名と共に、合計12名でスタートします。

●10月9日(火)～12(金)までは、前期伝道実習が行われます。(年2回、10月と4月の伝道実習を受入れて下さる教会を随時募集しています。)

●10月23(火)、24(水)はオープンカレッジです。詳細は追って各教会へご案内いたします。

編集後記

猛暑、酷暑、災害級、今年の夏は記録的な暑さに見舞われました。最高気温のニュースでは、毎回、神学生の出身教会の地名を耳にしました。9月からは、さわやかな軽井沢に戻ります。さあ、霊に燃え、主に仕よ！ 白石公章